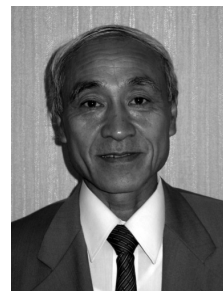


- 今月の内容 ● 新任あいさつ  
● 平成19年度 研究テーマ  
● 人事異動及び新体制

### 新任のごあいさつ



センター長 安井 克幸

この4月に着任しました。食品業界の皆様方に一言、ご挨拶を申し上げます。

愛知県の製造業は急速に展開する経済のグローバル化や情報化の中においても着実な努力を積み重ね、製造品出荷額が30年間にわたり全国第1位を誇る生産地域を形成しています。

この中で食品工業は生産を堅持し、代表的な愛知の産業として大きく寄与してきているところですが、他の産業と同様、さらに広がりを見せる社会経済やこれまで経験したことのない高齢化社会の到来、2007年問題ともいわれている現場の人手不足などに起因する大きな転換期が到来しています。今後の発展のためには新たな地域づくりが求められており、県では次世代産業の創出に向け、産学行政が連携して研究開発を推進する先導的中核施設を中心にして、中部の研究開発拠点を目指す「知の拠点」構想が進められています。

愛知県産業技術研究所は平成14年の統合編成から5年間の経過し、時代に合った研究所として変貌を遂げつつありますが、情勢への対応にはさらに強固な組織作り、時宜に適合した新たな技術基盤構築が必要です。このため、産学連携強化等を中心とした具体的な取り組みを進めているところです。

こうした流れに沿ったセンターの研究開発

といたしましては、今年度、メソポーラス材料をテーマとするプロジェクト研究に参加するほか、液状食品の新製造システムの開発、人工酵素の活用化、異物同定に関する研究、環境浄化技術の開発及びニーズ対応型共同研究の特別課題研究5テーマ、清酒、菓子・パン、漬物、豆腐等の食品製造現場に即した経常研究5テーマに取り組みます。この地域の食品工業の豊富な技術蓄積が大きく展開していくことが産業発展の鍵を握っています。皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

最近、テレビでも「食品安全GAP（農業行動規範）」や「食育」が取り上げられ、消費者の食品に対する関心はこれまでとは別の面で高まっています。日々の生産にとりまして厳しい時代が到来するという見方もありますが、将来に向けての指針、ビジネスチャンスでもありと考えています。何れに致しましても、当センターの役割は食品産業発展のための技術支援であり、業界の当面する技術課題である、食品の安全・安心の確保、食品副産物・廃棄物の有効利用、健康機能性食品の開発、新しい製造技術の開発などに継続して力を注いでまいります。

皆様、なお一層のご利用を是非お願い致します。

